

## I 学校の概要

### ICT活用推進実践校事業 小豆島町立星城小学校

#### ◆ 児童数及び教員数（令和6年4月1日時点）

児童	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	全校	教員	15名
	2学級 18名	2学級 22名	2学級 19名	1学級 19名	3学級 27名	1学級 24名	11学級 129名		

#### ◆ 学校の特徴

本校のめざす子ども像に「夢に挑戦する子」を掲げているが、自分の課題をもち、それらを様々な方法で解決していこうとする力や、自分の考えをもち、友だちと伝え合うことに苦手意識をもつ児童が多い。

そこで本校では、一人一台タブレット端末の導入以来、ICTを積極的・効果的に活用し、個々の課題解決のために様々な方法や手段を自己選択したり、共有ノートの中で友だちと学び合ったりしてきた。ICT操作活用技能も向上し、児童は、ICTの便利さや有効性を実感し、意欲的に学習に取り組むことができている。しかし、課題解決の中で、自分の考えをもてなかつたり、自分にどんな力が付いたのかメタ認知できていなかたり、ICTの使用におけるルールが守れなかつたりと、課題も多く見られた。

## II 研究の概要

### 主体的・協働的に学び、伝え合おうとする児童の育成 ～ 学びの選択と振り返りの充実 ～

#### ◆ テーマ設定の理由

多くの情報にあふれる複雑で予測困難な未来を見据えた時、一人一台端末の導入により、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実していくことが求められる。

そこで本年度は、児童が自主的にルールをつくり、自分の課題を解決する一つの手段・方法としてICTを活用しながら主体的・協働的に学ぼうとする児童を育成したい。また、ICTを使って自分のノートを工夫して作ったり、友だちと学び合ったりすることで、振り返りの充実を図る。さらに、学習の中だけでなく、様々な教育活動の中でICTの日常化を図り、さらなるICTの利活用を進めていきたいと考える。

#### ◆ 研究内容及び方法

##### ① 個別最適な学びと協働的な学びの充実

- ・ 星城スタンダードにおいて児童が個々に課題解決する方法や手段を選べるよう、環境設定を行う。
- ・ 他校と大型モニターを通して協働的に学び、伝え合う場とする。
- ・ 家庭学習においてAIドリルを行い、個別最適な学習の充実を目指す。
- ・ 家庭学習と授業をつなぎ、自分の考えをもって協働的な学びの充実を図る。
- ・ ICTを活用した授業実践を行い、指導主事より指導・助言をいただく。

##### ② 情報教育の計画的実践

- ・ 児童が自主的にICT活用ルールを作成し、日常的に効果的に使えるようにする。
- ・ 朝の活動や昼の活動の時間を活用し、各学年で身に付けたい情報活用能力の体系表をもとに、基本操作の習得や情報モラルについて計画的に身に付ける。

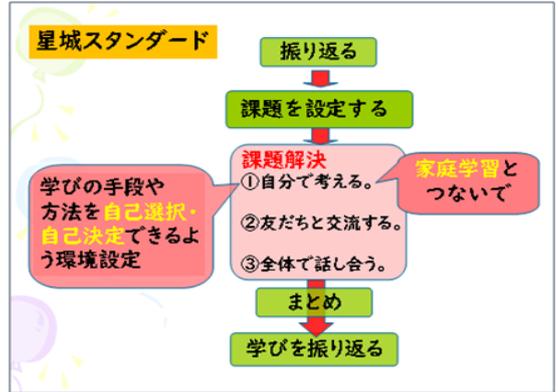
##### ③ 校務におけるICTの日常的活用

- ・ 各分掌や情報共有のための校務におけるICTの日常的活用を推進する。

### Ⅲ 研究の具体

#### ① 個別最適な学びと協働的な学びの充実

星城スタンダードの1時間の流れは、前時の振り返りから課題設定、課題解決、そして学習の終末、まとめ、学びの振り返りとなっている。課題解決の過程で、学びの手段や方法を様々に選べるよう環境設定を行ったり、家庭学習とつないで自分の考えをもったりして、児童一人一人が主体的に学びに向かい、協働的に学び合えるようにした。



#### (1) 学びの選択

##### ● 第1学年算数科

「10より大きい数」では、2とび、5とびの数え方を学習した。知っている児童も知らない児童もいたので、数え方を練習できる動画を作った。慣れている児童は2.5倍速でどんどん数えたり、難しい児童は少し遅いスピードに変えたりしながら、自分に合ったスピードでくり返し唱える練習ができた。復習問題に取り組む際にも、この動画を参考にしている児童もいた。

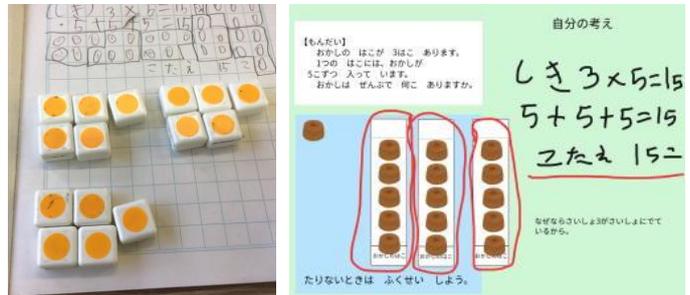
【星城スタンダード】



【2とび、5とびを練習する児童】

##### ● 第2学年算数科

「かけ算」の、何のいくつか分なのかを理解する学習では、教師がいくつかの解決方法を準備して示すことで、児童が、ブロックを使ったり、タブレットのお菓子の絵を動かしたりして、 $3 \times 5$ なのか $5 \times 3$ なのかを説明できるよう支援した。自分で選んだ方法で自分なりの考えをもつことで、自信をもってペア交流や全体交流ができた。

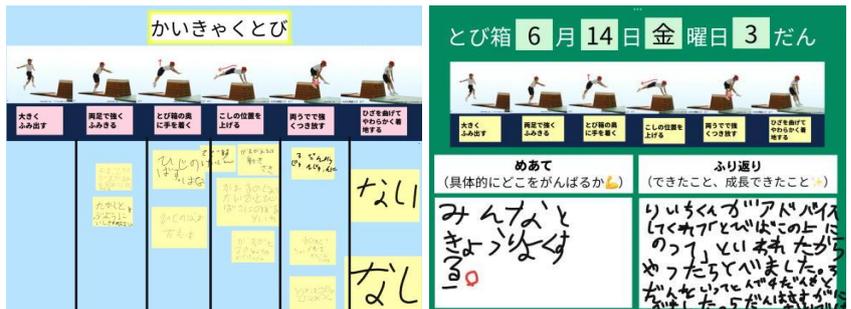


【課題解決の方法を選択】

#### (2) ICTを活用した自分のノート作り

##### ● 第3学年体育科

「跳び箱運動」では、毎時間、めあてをもって跳び箱に取り組むために、「ここまでできたよノート」と称して、自分がどこまでできていて、どこに課題があるのかを視覚化したデジタルノートを作成した。そして、各自が作成したノートに基づいて交流することで、友だちとの学び合いにつなげた。



【「ここまでできたよノート」に基づいて自分の課題に取り組み、振り返る】

### (3) 友だちとの学び合い

#### ● 第6学年音楽科 ～教科書のQRコード活用～

「ボイスアンサンブルを作ろう」では、教科書に掲載されているQRコードを活用し、ボイスアンサンブル作りに取り組んだ。好きなリズムを入れて再生すると、自分が作ったリズムが確認できる。自分でリズムと言葉を考えた後、3人組で話し合いながら、グループのボイスアンサンブルを完成させた。自分たちの作品を動画に撮り、確認しながら進めるグループもあった。



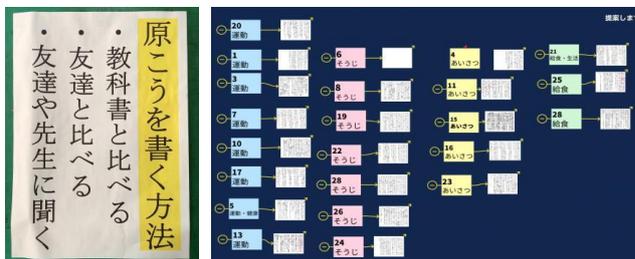
【グループでボイスアンサンブルを作る児童】

#### ● 第5学年国語科 ～デジタルノートの共有～

「提案します！1週間チャレンジ」では、印象に残る提案の原稿を作ろうという課題を設定した。それを解決するための方法として、①教科書を参考にしながら書く。②デジタルノートの共有機能で友だちの原稿と比べながら書く。③友達や先生に聞いて書く。などを示し、一人一人が選んで取り組めるようにした。また、表現方法も、タブレットに打ち込むか原稿用紙に書くか、自分のやりたい方法を選べるようにした。

学び合いでの支援としては、単元の始めに、全校生のサブリーダーとして一人一人が呼びかけを行おうという意識もてるようにし、みんなで作り上げようとする気持ちを高めておくことで、お互いに友だちの原稿を抵抗なく見合うことができるようにした。

児童の振り返りでは、始め、書くことがないと言っていた児童が原稿を書けるようになったこと、友だちから学びやすく、思ったよりたくさん書けたこと等が書かれており、考えがもちにくい児童や自分の考えに自信がもてない児童も、協働的に学びながら自分の考えを構築していく支援となった。



【方法を選び、デジタルノートの共有機能を活用】



教科書を中心に友達のものも少しずつ参考していいと思う作品が作れた。やってみてすごくやりやすかった



最初は書くことがないと思っていたけど友達や先生に聞くことで分かってよく書けました



最後まではいけなかったけど思ったよりいっぱいかけて嬉しかったし、楽しかったです。自分でも原こうをきれいにかけて楽しかったです。

【児童の振り返りより】

#### ● 第3学年道徳科 ～思考ツールの活用～

「心にひびくかねの音」では、教科書、ノート、ワークシート、タブレット等、使う学習用具を様々に試行錯誤した結果、教科書以外には全てタブレットで進めることとし、机の上もすっきりと整理できた。



【机上をすっきり整理】



【ボジショニングで自分の立場を明確に】

学習活動としては、自分ならどうするかについて立場を明確にするために、タブレットを活用してボジショニングを行い、自分の考えをもってから友だちとその理由を交流した。自分の考えを明確にもっていることで、判断の根拠をしっかりと交流することができていた。交流後、友だちの考えを聞いて立場が変わったという児童の姿も見られた。

また、教材文の登場人物が適切な行動をとれた理由について、「クラゲチャート」を用いてたくさん書き出し、提出・共有することで、道徳的価値に迫り、まとめや振り返りへとつなぐことができた。

**心にびびかねの音**

どうして、アルベルトは小島をにがすことができたの？

あ、今日の大切なのは正しいことをするための強さや、ナガヒツツつたての思いやり。ここからは正しくないと分かっても、やらなければならないし、

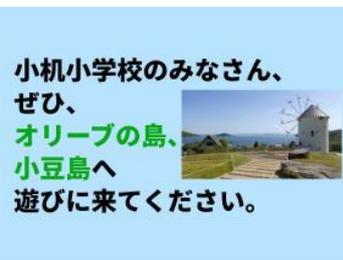
【思考ツールの活用】

#### (4) 大型モニターの活用 ～横浜市立小学校との交流～

ある横浜市立小学校の5年生がオリーブについて学習しており、本校でも4年生がオリーブについて、6年生が小豆島全般についてそれぞれ学習しているため、両校で交流学習を行っている。交流する際は、Web 会議システムを使用し、大型モニターも活用しながら進めている。

4年生は、オリーブ公園へ見学に行き、オリーブについて教えてもらったことや、横浜の小学校から質問のあった「オリーブに適した土」についてオリーブ公園の方に尋ねた結果について、伝えることができた。また、オリーブに関する出前授業でのクラフト作り体験についても紹介した。

6年生は、グループごとにまとめた小豆島の醤油の歴史や、壺井栄氏の人物像、そうめん等について伝えた。横浜の小学校から質問のあった「給食に出るオリーブメニュー」についても、オリーブナポリタンやオリーブピラフ等を紹介した。



【リモートで交流する児童】

【オリーブの給食を紹介】

#### (5) 振り返りの工夫

各単元の終末には、その単元で学んだことを伝え合う活動を取り入れている。その単元で学んだことを各自で1つのシートにまとめ、グループで説明し合う際にそれを見せながら伝えることで、自分の学びをもう一度確認することができた。

**自然災害から命を守る**

地震が起きたら、避難がなかなかできないことがあるので住居どうしの協力が必要

自助	共助	公助	互助
自分の身は自分で守る ・逃げて行動 ・スマホやタブレットの下にもかく ・避難グッズを用意	近所や知り合いと助け合って守る ・近所や知り合いと助け合って守る ・おんない組を行う ・近所や知り合いと助け合って守る	市や県、国などによる助け ・防災訓練の参加、参加 ・防災訓練の参加、参加 ・防災訓練の参加、参加	他の町いさとの助け合い ・ボランティア活動の受け入れ ・ボランティア活動の受け入れ ・ボランティア活動の受け入れ

※ほとんどのことは考えただけでできることなので、ぜひ実践してほしいです。(個人所有)

【単元で学んだことをまとめる】

**人のからだ(骨、筋肉、関節)**

- 筋肉がゆるんだり、ちぢんだりすることで骨が動く。
- 骨は、からだを支えたり、守ったりしている。

かたい骨  
柔らかい筋肉  
骨と骨のつなぎめ…関節

この勉強をするまでからだがどうなっているか気にしてなかったけど、この勉強をして、からだの事が気にならなくなりました。



【学んだことをグループで伝え合う児童】

#### (6) AIドリルの活用

家庭学習では、AIドリルを課題として活用している。自分の習熟度に合わせて進め、誤答になっても表示されるヒントを参考にもう一度解き直すことができる。学校でも、苦手なところや次のテスト範囲などを自分で選んでどんどん進めることができるが、家庭に持ち帰ることで、より一人一人に合った学習となっている。

今後の見通しとして、来年度からは低学年での端末持ち帰りを行う予定である。また、AIドリル以外の家庭学習での端末活用もさらに進めたいと考えている。



【個々の学びに対応したAIドリル】

## (7) 家庭学習と授業をつなぐ

授業の中で、広がりや深まりのある話し合いを行う時間や、振り返りを行う時間の確保が課題となっていることから、家庭学習で授業の導入や事前読み等を行い、授業とつなぐというICTの活用を少しずつ取り入れている。

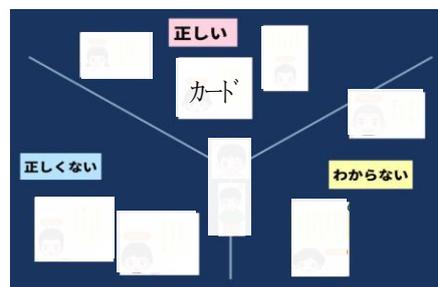
### ● 第4学年国語科・道徳科

国語科「ごんぎつね」では、タブレットに教科書の鳥瞰シートを配付し、家庭学習で、ごんの兵十に対する気持ちと、兵十のごんに対する気持ちとが分かる所に色分けした線を引いておいた。授業の中では、それをもとにしながら登場人物の気持ちの変化についてしっかりと話し合う時間を確保でき、ごんと兵十の関係をまとめることができた。また、話し合ったことをもとに、人物の気持ちの変化や自分の考えを感想にまとめることは、再び家庭学習で行った。

道徳科では、思考ツールの「Yチャート」に登場人物のカードを入れて配付し、家庭で、資料の事前読みと、各カードの行動を正しいと思うかどうかの分類に取り組みさせた。自分の立場や考えをもっておくことで、授業の中では、正しい・正しくないと考えた理由について、友だちと比較したり議論したりすることができ、自分の考えを振り返る時間も十分に確保することができた。



【家庭学習で自分の考えをもつ】



【事前に自分の立場を明確に】

## ② 情報教育の計画的実践

### (1) 自主的ルール作成

タブレット活用のルールを守れない児童が一定数存在するという課題から、本年度は自分たちで自主的に活用ルールを話し合い、守ることへの意識を高めていきたいと考えた。まず各学級でルールを話し合い、それを代表委員会でモニターに映し、共有した。どの学級でも、自分たちで考えたルールをタブレットの待ち受け画像にする等、みんなで意識を高めるような工夫が見られるようになった。



【代表委員会で話し合う】

### 4 年生のタブレットルール

- ① 授業中に関係のないことをしない
- ② 必要のないアプリを入れない
- ③ 持ち歩く時は、とじて大切に持つ。

※先生方へ  
ルールは3つより少なくてもOKです。3つより多くなれば枠を増やしてください。

【自分たちで決めたルール】

### (2) 基本的操作の習得

タイピングについて、これまでは4年生からローマ字で入力できることを目標としていたが、今年度は1年生からタイピングができるように毎週練習を重ねている。タイピング練習アプリや授業中のワークシートなどを活用しながら、例えばローマ字を学習した3年生では、1学期には1分間に14文字だった児童が、2学期では30文字打てるようになる等、全ての児童のタイピング速度が上がっている。

キーボード：ローマ字でタイプするキー  
▶「あ」・「い」・「う」・「え」・「お」：それぞれのキーを打つ（タイプする）。  
▶「か」～「わ」の行：それぞれのキーを打ってから、あ～おの後のキーを打つ。



【タイピングの練習】



【タイピング速度が上がった結果】

### ③ 校務における ICT の日常的活用

昨年度までペーパーで行っていたクラブ活動の希望調査を、学習支援アプリのアンケート機能や表計算ソフトを使って集計した。希望の偏り等が、早く、正確に、分かりやすく伝えられ、職員会議での提案もスムーズに行えた。

清掃指導では、縦割り班の清掃分担や予備の清掃用具がどこにあるかなどについて、知りたいときにいつでも見られるように、デジタルノートの共有機能を活用した。

また、プレゼンテーションソフトを用いて、視覚的に分かりやすい清掃掲示も作成し、自分の役割がはっきりと分かるようにした。他にも、デザインアプリを用いて視覚的に伝わりやすい学校案内を作成した。



【アンケート機能によるクラブ活動希望調査】



【アプリを活用した掲示物作成】

さらに、本校の教職員がよく利用するようになったアプリが、クラウドツールのチャットである。共有したい内容を、チャットならば簡単に広めることができる。画像や動画も貼り付けることができたり、新規投稿が通知される際に画面に内容が表示されたりするので、分かりやすくて便利である。

また、職員会議での資料をクラウド上で共有し、いつでも見られるようにしている。しかし、ペーパーに慣れている職員もあり、実際にタブレットとペーパーのどちらで参照するかは、自己選択して活用している。



【積極的にアプリを活用して】



【チャットによる教職員の情報共有】

# IV 成果と課題

## ◆ 研究の評価方法

### ○ 校内での ICT に関するアンケート

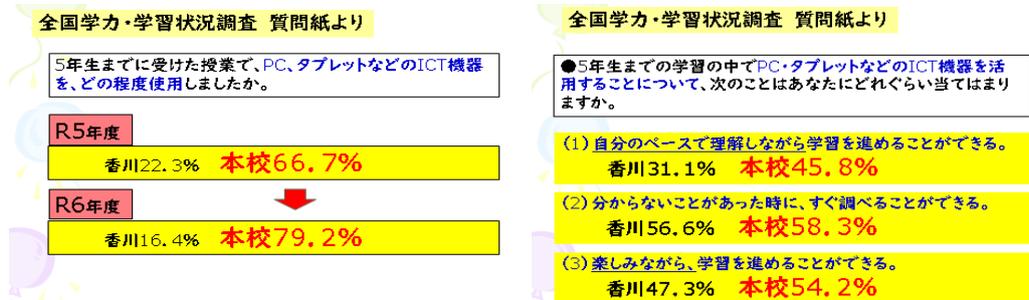
全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の質問紙調査の項目を参考に作成した ICT 活用に関するアンケート（6月と10月）を比較・分析した結果、低学年でのタイピング技能の向上や、中学年・高学年での ICT を用いた表現物の作成、学習のまとめや振り返りでの活用等、全体的に ICT の活用が広がってきていることが分かった。



### ○ 全国学力・学習状況調査における質問紙の分析

ICTに関する項目について前年度と比較したり、県平均と比較分析を行ったりした結果、授業の中での ICT 活用の状況や、児童一人一人の情報活用能力等について変化が見られた。

「5年生までに受けた授業で、PC、タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。」という問いでは、令和5年度・6年度ともに、香川県の平均よりかなり高い数値になっている。また、5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することについて、(1)「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、(2)「わからないことがあったときにすぐに調べることができる」、(3)「楽しみながら学習を進めることができる」の問いで、いずれも香川県の平均より高い数値となっている。



## ◆ 成果

- 星城スタンダードの共通実践の中で、個別最適な学びをめざし、児童が自己選択できるような学習を意識することで、主体的に学びに向かう姿勢が見られるようになってきた。
- デジタルノートの共有機能や思考ツール、大型モニターなどを活用し、友だちの考えと自分の考えを比べたり参考にしたりして学び合うことで、自分の考えをもてるようになった児童が増えた。
- 学び合いの土台となるタブレットの活用技能が向上した。さらに、校務においても様々な活用が広がり、ペーパーレス化や業務改善も進んできた。

## ◆ 課題

- 家庭学習と授業をつなぐ ICT の活用により、学び合いの場や振り返りの場を確保することが必要である。家庭学習でどのような活用ができるか、各学年で実践を重ね、効果的な活用については情報共有をしながら、深まりのある学び合いや振り返りの充実へとつないでいきたい。
- ICT を日常的に使うようになると、ルールの徹底がさらに必要になってくる。本年度、自主的にルールを作って取り組んできたが、そのルールについて機会を捉えて随時確認をしたり、必要に応じて変更したりし、保護者にも啓発していくことが大切だと考える。